

竜南小だより  
H20,4,18(金)

NO.2

甲斐市立竜王南小学校  
発行者 校長 相川芳廣

### 新しい出会いと順応

平成20年度が始まって2週間が過ぎました。クラス替えのあった1,3,5年生では新しい友だちとの出会いがあります。この時期は、新しい学級での友だち関係はまだ流動的です。その為、子どもの中には、新しい環境になかなか馴染めず心身に大きなストレスを感じる子もいます。担任も細心の注意を払っていますが、保護者方々もお子さんの様子に普段以上に目を注いで頂きたいと思います。

クラス替えのなかった2,4,6年生は同じ仲間と学年が1つ上になったことから、安定した友だち関係が持続します。

このように見てくると、平穏な人間関係が続くのでクラス替えが無い方が良いでしょう。ですが、そうとばかりは言えません。子ども達の人関係能力を養う上では、時々クラス替えを行い、従来の友人関係をリセット仕直すことは必要なことといわれます。

考えてみれば、お子さんが中学校や高校へ、また将来、県外の大学などに進学した場合は、子ども達は見ず知らず人の集まりの中から自分の力で新しい人間関係を作らなくてはなりません。そのためにも人間関係づくり能力を徐々に養っておくことは大切なことです。このことは実は、子ども達の世界だけでなく、私たち大人の世界でもいえます。新しい職場、新しい環境に馴染むためには、「習うよりは慣れる」と自分自身に言い聞かせ、後(あと)は時の経過に身を任せることも必要なのでしょう。

子ども達は、学校では多くの時間を学級の中で活動します。また、学年単位で活動する(校外行事や合同体育や総合的な学習、生活科など)時間も多くあります。そこで、今年度、次のような考えで学年経営をお願いしました。

学年に担任以外の教員を配置する。

全学年ではありませんが、特に1クラスあたりの人数が多い学年に、県や市から特別に配置された教員(加配教員)を配置することで、その学年の教員数を増やし、児童1人ひとりに対して、きめ細かな指導をしていけるように考えました。特に本校は、3,4年生が1クラスの児童数が38名と非常に多い状況です。そこで、3年生と4年生には、担任以外に1名の先生をそれぞれ配置しました。担任の先生と協力して学年の児童の学習指導、生活指導、校外活動等での指導に関わっていきます。

さて、子ども達と先生の出会いについて考えてみました。子ども達にとって担任の先生や学年の先生、また特定の教科を教えていただく教務の先生は保護者以外では最も大きな影響を与える大人でしょう。ある意味では保護者よりも子ども自身の生き方に強い影響を与えることがあります。

(裏面の「少年」参照)

なかなかこのような劇的な出会いはないものですが、私なども自分自身の小、中学校時代を振り返ると、受け持ちの先生や学年の先生の教えや生き様、人柄に大きな影響を受けていたことが分かります。また逆に、自分が教師になり担任をしていた時には「今日は子ども達から教えられた」「今日は子どもたちに一本取られたな」という楽しい思いをしたことが何度もありました。

今年度、南小の子ども達と先生方との出会いが、お互いに良い影響を与え合い、子どもも教師もその出会いの中から共に学び、成長できる、そんな素晴らしい出会いになることを願っています。